

戰史資料

步兵第三聯隊第三大隊
(宮古島)

姓名	階級	軍種	出身	備考
三浦 一	大尉	歩兵	東京府	
佐藤 二	中尉	歩兵	大阪府	
田村 三	少尉	歩兵	神戶府	
山口 四	少尉	歩兵	東京府	
村上 五	少尉	歩兵	大阪府	
高橋 六	少尉	歩兵	東京府	
石川 七	少尉	歩兵	大阪府	
中野 八	少尉	歩兵	東京府	
山本 九	少尉	歩兵	大阪府	
谷本 十	少尉	歩兵	東京府	
村中 十一	少尉	歩兵	大阪府	
森 十二	少尉	歩兵	東京府	
山崎 十三	少尉	歩兵	大阪府	
赤松 十四	少尉	歩兵	東京府	
岡田 十五	少尉	歩兵	大阪府	
大野 十六	少尉	歩兵	東京府	
森田 十七	少尉	歩兵	大阪府	
岩間 十八	少尉	歩兵	東京府	
小島 十九	少尉	歩兵	大阪府	
菅 二十	少尉	歩兵	東京府	
若林 二十一	少尉	歩兵	大阪府	
藤 二十二	少尉	歩兵	東京府	
田原 二十三	少尉	歩兵	大阪府	
山手 二十四	少尉	歩兵	東京府	
石井 二十五	少尉	歩兵	大阪府	
杉 二十六	少尉	歩兵	東京府	
酒井 二十七	少尉	歩兵	大阪府	
堀 二十八	少尉	歩兵	東京府	
宮 二十九	少尉	歩兵	大阪府	
山本 三十	少尉	歩兵	東京府	
林 三十一	少尉	歩兵	大阪府	
田中 三十二	少尉	歩兵	東京府	
佐藤 三十三	少尉	歩兵	大阪府	
高橋 三十四	少尉	歩兵	東京府	
石川 三十五	少尉	歩兵	大阪府	
中野 三十六	少尉	歩兵	東京府	
山本 三十七	少尉	歩兵	大阪府	
谷本 三十八	少尉	歩兵	東京府	
村中 三十九	少尉	歩兵	大阪府	
森 四十	少尉	歩兵	東京府	
山崎 四十一	少尉	歩兵	大阪府	
赤松 四十二	少尉	歩兵	東京府	
岡田 四十三	少尉	歩兵	大阪府	
大野 四十四	少尉	歩兵	東京府	
森田 四十五	少尉	歩兵	大阪府	
岩間 四十六	少尉	歩兵	東京府	
小島 四十七	少尉	歩兵	大阪府	
菅 四十八	少尉	歩兵	東京府	
若林 四十九	少尉	歩兵	大阪府	
藤 五十	少尉	歩兵	東京府	
田原 五十一	少尉	歩兵	大阪府	
山手 五十二	少尉	歩兵	東京府	
石井 五十三	少尉	歩兵	大阪府	
杉 五十四	少尉	歩兵	東京府	
酒井 五十五	少尉	歩兵	大阪府	
堀 五十六	少尉	歩兵	東京府	
宮 五十七	少尉	歩兵	大阪府	
山本 五十八	少尉	歩兵	東京府	
林 五十九	少尉	歩兵	大阪府	
田中 六十	少尉	歩兵	東京府	
佐藤 六十一	少尉	歩兵	大阪府	
高橋 六十二	少尉	歩兵	東京府	
石川 六十三	少尉	歩兵	大阪府	
中野 六十四	少尉	歩兵	東京府	
山本 六十五	少尉	歩兵	大阪府	
谷本 六十六	少尉	歩兵	東京府	
村中 六十七	少尉	歩兵	大阪府	
森 六十八	少尉	歩兵	東京府	
山崎 六十九	少尉	歩兵	大阪府	
赤松 七十	少尉	歩兵	東京府	
岡田 七十一	少尉	歩兵	大阪府	
大野 七十二	少尉	歩兵	東京府	
森田 七十三	少尉	歩兵	大阪府	
岩間 七十四	少尉	歩兵	東京府	
小島 七十五	少尉	歩兵	大阪府	
菅 七十六	少尉	歩兵	東京府	
若林 七十七	少尉	歩兵	大阪府	
藤 七十八	少尉	歩兵	東京府	
田原 七十九	少尉	歩兵	大阪府	
山手 八十	少尉	歩兵	東京府	
石井 八十一	少尉	歩兵	大阪府	
杉 八十二	少尉	歩兵	東京府	
酒井 八十三	少尉	歩兵	大阪府	
堀 八十四	少尉	歩兵	東京府	
宮 八十五	少尉	歩兵	大阪府	
山本 八十六	少尉	歩兵	東京府	
林 八十七	少尉	歩兵	大阪府	
田中 八十八	少尉	歩兵	東京府	
佐藤 八十九	少尉	歩兵	大阪府	
高橋 九十	少尉	歩兵	東京府	
石川 九十一	少尉	歩兵	大阪府	
中野 九十二	少尉	歩兵	東京府	
山本 九十三	少尉	歩兵	大阪府	
谷本 九十四	少尉	歩兵	東京府	
村中 九十五	少尉	歩兵	大阪府	
森 九十六	少尉	歩兵	東京府	
山崎 九十七	少尉	歩兵	大阪府	
赤松 九十八	少尉	歩兵	東京府	
岡田 九十九	少尉	歩兵	大阪府	
大野 一百	少尉	歩兵	東京府	

一、編成裝備關係

步兵第三聯隊第二大隊（宮古島）
陸軍少佐 長谷川多喜雄

自己部隊及關係部隊編成人員 兵器 彈藥

80名	本部	
150	五中隊	隸下
155	六中隊	
150	七中隊	
155	八中隊	
190	機關中隊	
90	大隊砲	
一小	小山砲	指揮
一小	小隊砲	
一小	重砲	下
一小	通信	
990名	計	

銃	器	具	砲	器	銃
三八 九	大八 隊	三八 三	三八 三	三八 三	三八 三
重	小四 砲	獸 馬 具	雙 砲 隊 砲	輕 機 砲	步 隊 砲
擲	旗	具	砲 鏡	機 砲	步 砲
一 二	七 五 〇	一 二 八	三 九 二 二 二	一 三 七 四	七 八 〇 二 三 三
九 七	九 九	九 九	九 九	九 九	九 九
手 擲 煙 筒	發 射 煙 筒	破 壤 煙 筒	手 擲 煙 筒	步 隊 砲 彈	重 機 砲 彈
八 五 〇	〇 〇	一 〇 〇	一 四 〇	二 四 〇	一 六 〇

二、職員表

50	5/11	
中 隊長	軍 主 計 官	副 官
大 中 尉	中 大 尉	少 佐
岡 本	宮 島	津 原
栗 次 郎	勝 清 人	千 代 志 男
		長 谷 川 多 喜 雄

3. 人員兵器等、増減関係
 戦斗ヨリ戦死者僅カニ二名ニシテ爾余ハ病死者ナリ
 其ノ病名左ノ如シ

IBIA	IIMGT	Sc	7c
小隊長	中第一小隊長	中第一小隊長	中第一小隊長
大尉	中尉	中尉	中尉
小	宮寺鶴上	前田光伊	藤育坂中
屋	内村田村	溝中延沢	本藤村部山
忠	正泰幸陽	晋武喜久	三新幹
靖	勝知彦一	作雄竹雄	人武郎次夫博存男

大尉 藤育坂中
 大尉 三新幹
 (以下略)

一、戦死者名簿
 一、戦死者名簿
 一、戦死者名簿

戦死者名簿	戦死者名簿	戦死者名簿
中隊	中隊	中隊
小隊	小隊	小隊
大尉	大尉	大尉
中尉	中尉	中尉
少尉	少尉	少尉
兵	兵	兵

脚氣	34名
赤痢	32名
栄養失調	18名
マラリア	15名
腸炎	11名
其他	15名
戦死	2名
計	127名

4. 台湾人、鮮人、現地位住民使役ノ關係
 台湾人、鮮人ノ使用セズ

戰車陷穽構築ハタシ、昭和十九年十月頃ヨリ翌年三月頃迄
 現地位住民ヲ以テ編成セル奉皇隊ヲ使用セリ、又現地自治ニ

昭和十九年六月二十七日

臨時編成下令
 編成完了
 納金山

同 七月七日
 同 七月十三日
 同 七月二十五日
 同 八月十六日
 同 八月二十二日

鹿兒島港上陸
 宮古島上陸
 南西空襲戦ニ参加

昭和二十年三月二十六日
 昭和二十一年一月十一日
 昭和二十一年一月十七日

天子作戦ニ参加
 復員タノ宮古島出發
 浦賀港上陸

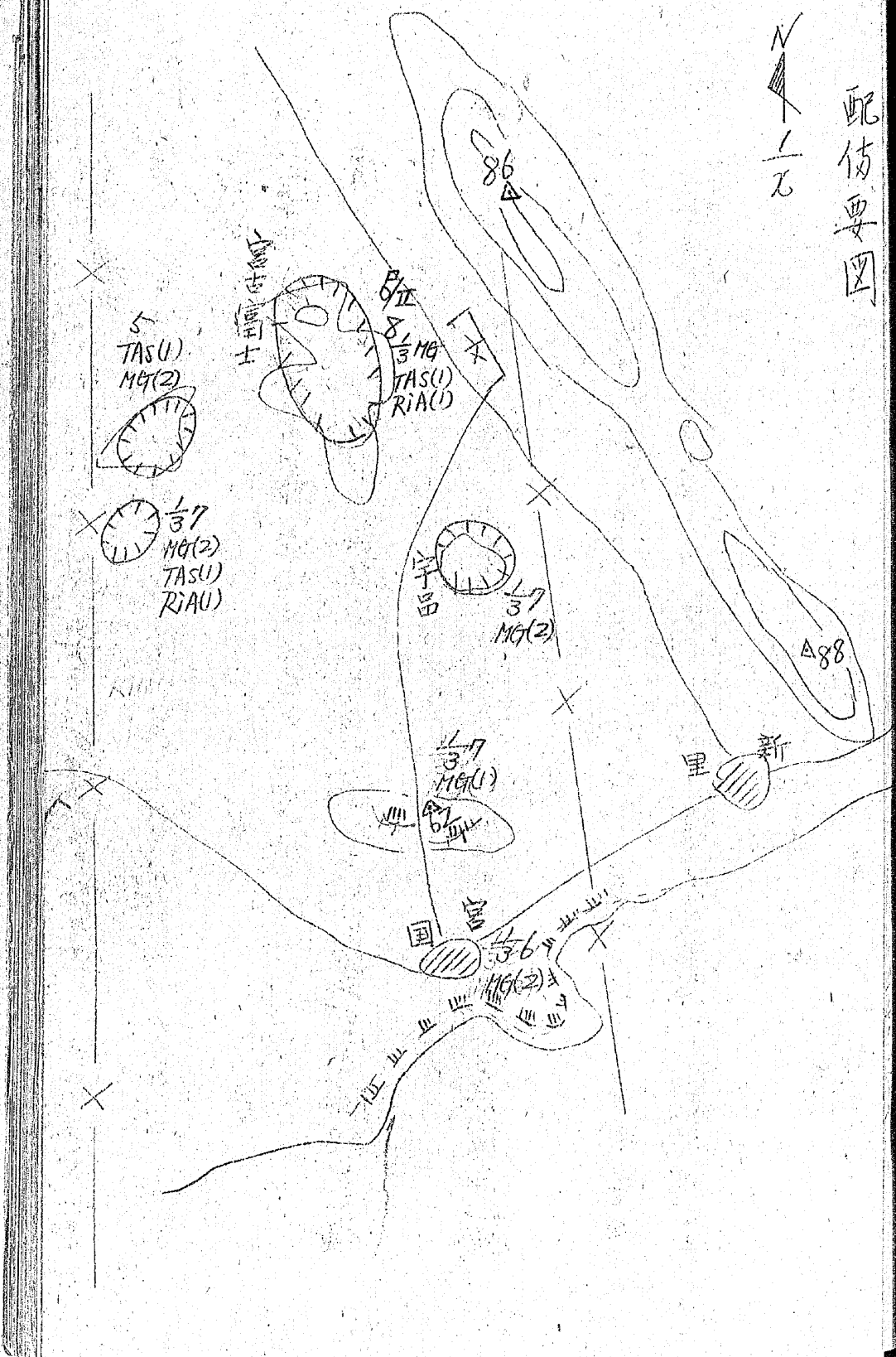
三、指揮隷屬關係其ノ變遷ノ概要

ナシ

四、作戰準備關係

一、作戰計畫概要

防禦方針

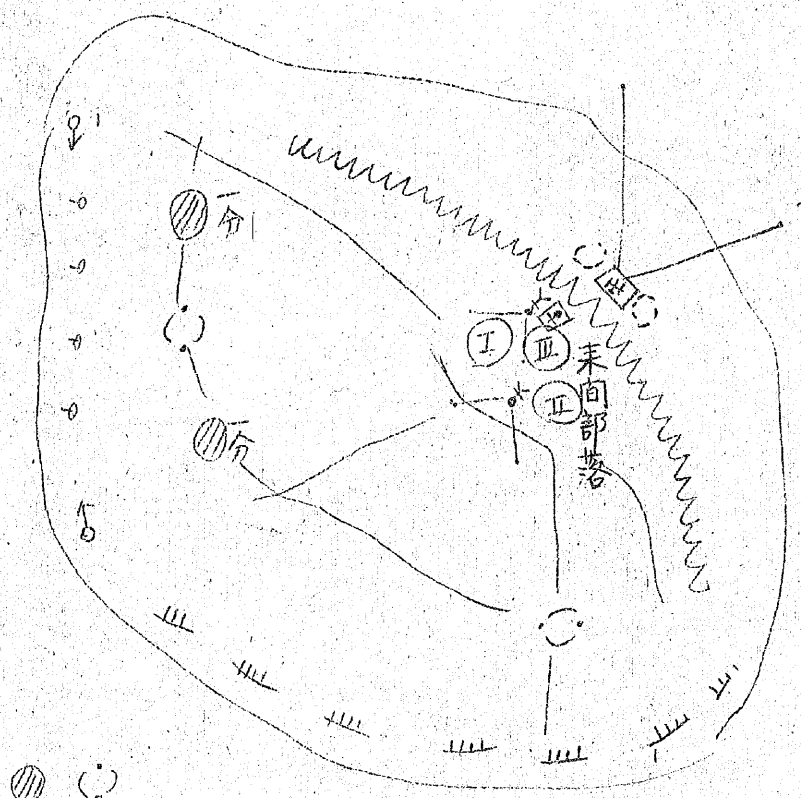


配備要図

(要図参照)

- (一) 砲兵集中火力ト相俟ツテ敵達着時集滅スルヲ本旨トス 己方得ズ上陸セザル場合ハ其ノ混乱ニ乘シ水際部隊及警戒部隊ヲ以テ斬込ヲ實施シ混乱ニ陥ラシム
- (二) 主陣地ノ戰鬥ニ於テハ要塞化セル宮古富士ヲ據点トシ計画的斬込ヲ反復シ敵戦車迫撃砲及自兵力ノ漸減ヲ図ルト共ニ鞏固ニ陣地ヲ占領シ敵ヲ陣前ニ集滅ス
- (三) 孤立ニ陥リタル場合ニ於テハ宮古富士ヲ據点トシ斬込ヲ反復シ敵兵力ノ漸減ヲ図リシテ絶対持久ヲ策ス
- (四) 東島守備部隊(特殊火器及遊撃隊ノ活躍ト相俟ツテ部落周辺陣地ヲ堅固ニ死守シ以テ側射山砲ノ偉力ヲ最後迄發揚セシム

未間島配仿要図



○ 偽陣地
 ● 警戒部隊

(1) 起工時期 昭和十九年八月十五日

所要人員 一百八百名 延二四〇〇〇〇名

使用資材 円匙、十字鋸、石、鎚、鉄棒、クイナ、マイト

モッコ

(2) 完成時期及強度

昭和二十年七月上旬 主陣地、宮古富士要塞完成（一中隊及重火器）

其他、洞窟陣地ヲ概成

警戒部隊ハ野戦陣地ヲ概成

水際陣地、洞窟陣地ヲ完成

七月下旬

3. 現地自給状況

自給ハ主トシテ甘藷、野菜及魚撈トシ長期ノ持久ニ対シテ左記ノ如ク完全ノ域ニ達セリ

甘藷一日二吉、野菜六〇瓦、獸肉三〇瓦、魚若干

4. 訓練、状況

防禦戰鬥教令ニ基テ戰鬥法ヲ習得スルト共ニ左記戰技、武技ニ習熟セリ。

左記

肉攻、狙撃、手榴彈投擲、斬込、水際戰鬥

特ニ水際戰鬥、肉攻及斬込ニ関シテ必勝、確信ヲ得タリ

五. 戰鬥狀況

ハ参加セル主要ナル作戰(戰鬥)ノ概況

南西空襲 (十月十日)

爆轟ハ主トシテ平良港灣及海軍中隊ニ指向セラレタリ 大隊ハ之レニ對シテ、勇氣ニテ應戰ス

飛行場管制ヲ終日上空ヲ飛行爆轟ヲ反復セリ 急ニ夜間

主力ヲ奪ゲテ、中隊修復ニ任ジ特攻機、出發ニ遺憾無カラシメタリ 又中隊ハ全火力ヲ集結、射撃ヲ實施、敵ノ心膽ヲ寒カシム

二. 機動部隊未襲狀況

昭和二十年四月三日、約十六隻ヨリナル機動部隊、海軍中隊、陸軍

中隊ヲ一斉ニ艦砲射撃ヲ爲シ、約一時間ニテ退去セリ

其他敵機動部隊接近ノ報ヲ受クルトシテ、ハタルモ遂ニ姿ヲ見ズ

三. 敵機、未襲狀況

南西空襲ニテ、一日延ニ三百機、島内唯一ノ平良港灣及

海軍中隊ヲ重点ニ爆轟セリ

天号作戰ニ牽制ノタメ、早朝ヨリ日暮迄殆ト定時刻ニ間斷無ク未襲シ、其數一日五六百機ヲ數フ、夜間空襲

毛偶、實施セシキ、其、主攻目標ハ井ナリ

4. 敵機ノ損害

不明

5. 落下 不対着降下ニ対スル処置

同 右

6. 敵ノ俘虏数

同 右

六. 給養衛生

給養ハ糧道ヲ絶タレ作戰任務遂行ノタメ終戦直前ニ

アリテハ遂ニ一人一日玄米一五〇瓦、甘藷二〇〇瓦、甘藷菜

ヲ混入シ カムトシ調味料トシテハ食塩ノミト云フ状態ニナリ

終戦後 復員時期明瞭トナルニシテ遂次向上ヲ

衛生状況ハ宮古島上陸以來急激ナル氣候風土ノ変化
激烈ナル陣地構築並警戒偵勤務ニ伴ヒ休養給養
ノ不備ナルタメ患者ハ続発セリ 以上ノ如ク患者続發セシ
ニモ不拘衛生機関不備ナルタメ死者続發シ其ノ数ハ
實ニ大隊ノ一割ニ達シ衛生状況ハ全ク不良ナリ

七. 終戦ヨリ帰還迄ノ行動ノ概要

大隊ハ終戦ノ大詔ヲ拝スルヤ國民学校ニ集結シ重点
ヲ自治作業ニ指向 長期駐留態勢ヲ確立 爾後ノ
復員ヲ待期ス

昭和二十一年一月十一日 米船「アト」エベヒト号ニ乗船
宮古島出航 同月十七日浦賀ニ上陸ス